

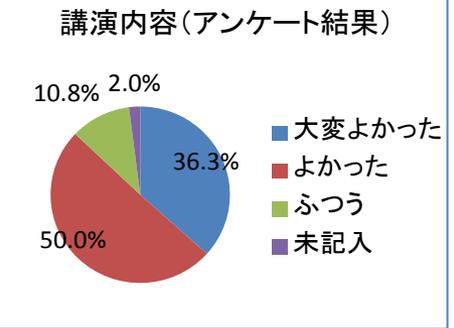
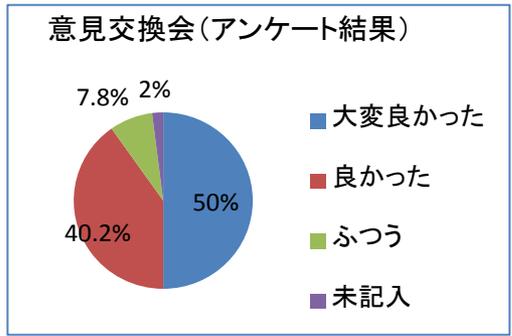
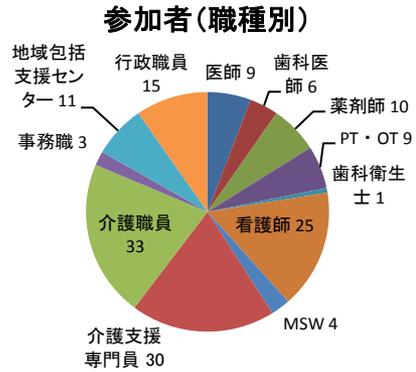
第1回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

- 平成26年7月29日(火)19:30~21:00
員弁老人福祉センターにて、第1回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました。
- 医師、歯科医師、薬剤師、介護支援専門員、介護職員等、多職種156名の方に参加していただきました。
- 予想を上回る参加者と、18Gでの意見交換会に不安もありましたが、運営委員の司会進行と、皆様のご協力により実のある研究会となりました。



桑名保健所 長坂所長
による講演！
「これからの在宅医療と介護連携に向けて…」

本日の司会は、運営委員の田中さん(アイリス)と中村さん(紫苑)でした♪



意見交換会の様子！！

意見交換会での意見

- ・福祉職からすると、まだまだ医療との関わりは苦手。
- ・多職種連携は誰かが中心になることではない。
- ・病院で出来ることが退院すると出来ない。チームアプローチが必要。
- ・介護現場では、医療等専門職種からのアドバイスを得るため、連携を取りたい。
- ・看取りの出来る施設の役割もある。そこに医療スタッフが訪問してくれることが安心。薬剤師の訪問もあれば……。
- ・在宅医療について、家族の意識が低い。家族が我慢せずにおれる環境が必要、大変さを共有できる場があればよい。

この他にもたくさんの意見がありました。

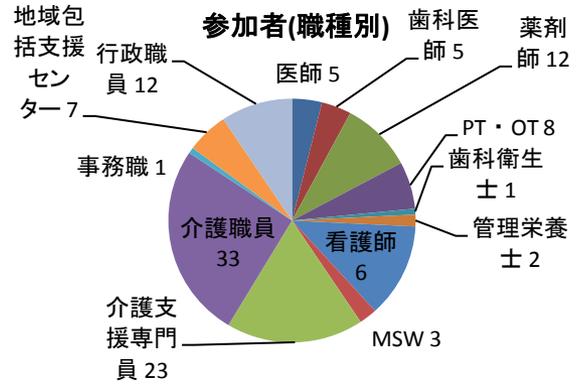
第2回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

テーマは、「お互いの仕事を理解し合おう！」

◎平成26年9月19日(金)19:30~21:00
 員弁コミュニティプラザで開催しました。第1回目と開催場所が変わり、迷われ方には大変ご迷惑をおかけしました。
 ◎医療職・介護職の方、128名の参加がありました。
 今回は管理栄養士の方にも、参加していただきました。



本日の司会は、渡部委員(とまと歯科)伊藤委員(訪問看護ステーションわかば)でした。

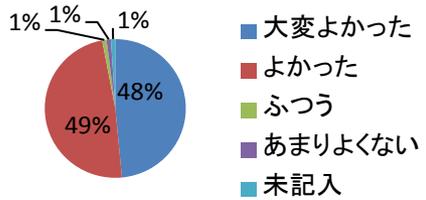


「訪問看護は何をしてくれるの？」
 いなべ総合病院
 訪問看護ステーションのぞみ
 ステーション長 守山 浩子氏



“最後に...”
 「私たち訪問看護師は、地域で育まれた利用者さんや、ご家族の価値観や死生観を大事にしながらい在宅看護、看取りに取り組んでいきたいと思っています。」と、締めくくられました。

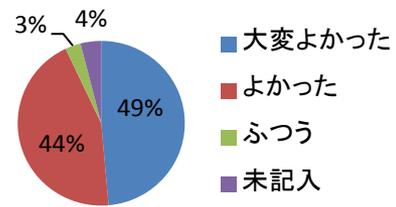
講演内容(アンケート結果)



講演の感想

- ☆訪問看護の仕事の内容がわかった。
- ☆在宅での看取りの大切さ、またそれだけ意義のあること、職種での連携の大切さを聞かせてもらった。
- ☆チームで取り組みれば、ご本人やご家族も安心できるのではないかと。
- ☆看取りを家族でしていくことの素敵さを知った。
- ☆実際の看取りの話は、こころに響いた。
- ☆訪問看護師の思いに触れ、より信頼感も高まった。

意見交換会(アンケート結果)



意見交換会の内容

- ☆他職種との壁の理解が出来、壁が少しでも取れていくチャンスであった。
- ☆在宅医療・介護連携をより深め、地域ケアの充実に向け取り組む必要がある。
- ☆薬の管理で、皆が悩んでいることがわかった。
- ☆病院で働く看護師は、入院時よりも退院後の在宅を、見据えたケアが必要であると感じた。
- ☆他の職種と連携を上手くするため、連絡帳を利用してはどうか。

第3回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

平成26年11月15日(土)14:00～16:00

今回は、「主治医意見書の書き方講習会」を兼ねて、いなべ総合病院で開催しました。

医療職・介護職の方、86名に参加していただきました。

講演内容をちょこっと紹介！

☆認知症の原因疾患は、介護職員も知識として持つておくこと。

①アルツハイマー型認知症

- ・80歳以上で“元気で、テクテク”の人は、“可能性大”
- ・若い人とは違い、高齢者の場合は特に、「低血糖に注意！」

②若年性アルツハイマー病

65歳未満に発症。仕事、住宅ローン…その人の生活にかかってくるため、長谷川先生は、保険や年金等の情報も提供し、支援を行っている！！

③血管性認知症

60～70代に脳血管障害の既往あり“よろよろ、ゲホゲホ”

④レビー小体病

パーキンソン様症状、認知症、幻覚、周辺症状が初期に出現

⑤ピック(前頭側頭葉型認知症)

反社会的行動を取る。MMSEは維持されているが、人格崩壊

④、⑤の二つは、**家族の介護が大変**…

☆在宅生活が不可能なレベル

“精神科対応が必要な時期であり、主治医が動くべき時である。”

在宅生活が不可能なレベルを主治医が判断し、対応する必要がある。

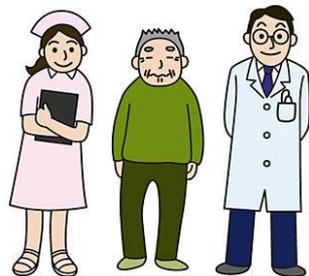
☆これまでのチーム医療は、「医師が中心」、今は「患者が中心」

患者中心のチーム医療で核となるのは、“**看護師**”

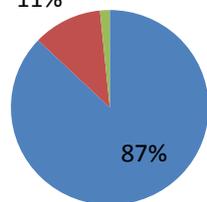
※血管性認知症の患者さんについて、主治医意見書を書く場合、認知症だけを書くのではなく、もともとは脳出血や脳梗塞等の疾患があって嚥下障害、講話障害、歩行障害が起こって来ているということを必ず記載する必要があります！

「多職種連携による認知症の方の在宅医療について」

講師：長谷川 嘉哉先生(医療法人ブレイン理事長)



11% 2% 講演内容(アンケート結果)



- 大変よかった
- よかった
- 未記入

アンケートからは、
☆これからの在宅医療について学べた
☆自分の職種がどのように関わっていけるか、今後どうあるべきかを考えさせられた
といった感想が多く寄せられました。

第4回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

テーマは、「お互いの仕事を理解し合おう！パートII」 薬剤師

◎平成27年1月16日(金)19:30～21:00

員弁コミュニティプラザにて開催しました。

◎医療職・介護職の方、109名の参加がありました。

講演「在宅患者さんと薬 ～在宅で薬剤師ができること～」

桑名地区薬剤師会理事 久保 和文氏より



薬のことは、遠慮なく薬剤師に相談してください！

薬に関して、医師に確認が必要な時、薬剤師であればスムーズに確認できます。

参加者の感想やご意見

- ・疑問に思っていたことが直接薬剤師さんから聞いて、参考になりました。
 - ・薬剤師さんにもっと相談して良いんだということが分かりました。
 - ・意見交換で薬を飲ませている、現場の話を書く事が出来よかった。
- テーマに関する要望については、「他の職種の講演」や「認知症」、「老々介護」などがありました。



高齢者と薬剤管理の2つのポイント

- ・飲みやすくするための工夫
(飲み忘れ、飲み誤りを減らすため)
飲む回数、剤型、一包化等
⇒**薬剤師**
- ・多職種連携で見守る
(見守りやすくするための工夫)
⇒**訪問看護師さん、ケアマネージャーさん、ヘルパーさん、他の皆様**

残薬を減らす、なくす



(残薬の1例)

中には、総額44,644円が無駄になっていたケースもあった！

お薬手帳の活用



お薬手帳は薬の重複、過量をなくすために必要

意見交換会の内容

- ・骨粗しょう症の薬を飲んでいる人は、抜歯すると壊死してしまう薬があるので、お薬手帳があればチェックできる。また薬の重複を避けることもできる。
- ・ニトロダームや認知症の張り薬を湿布薬と誤って使用していたケースがあった。
- ・訪問看護、ヘルパーに本来の業務をしてもらうためにも薬剤師は有効である。

＊在宅医療・介護連携研修会＊

「多職種連携による在宅医療」

～佐久病院における地域ケア活動の実践を通して～

一訪問 一笑い
をモットーに訪問

笑いが、患者・介護者
を元気にする



佐久総合病院

診療部長、地域ケア科医長 北澤 彰浩先生

平成27年2月1日(日)13:30～16:00

員弁コミュニティプラザにて開催。

医療職、介護職、病院関係者など83名の方に
参加していただきました。

☆佐久総合病院の在宅医療は、

「その人が希望する場所でその人らしく最期まで
生きることを支える医療」

☆選択肢の一つとして“自宅”を選ぶことが出来るよ
うに、地域で支える体制を作っておく必要がある！

佐久病院では、昭和20年頃から地域医療が行わ
れており、その当時の若月先生の意味、理念が今
もなお、受け継がれています。

・・・講演を聞いた参加者の声・・・

- 医療は、病気を治すだけでなく、患者の生活を支えるもの。
そんな地域があると知り、とても感動しました。
- 具体的な在宅医療の話や実例などを聞かせていただき、
大変よかった。イメージがわいた。
- 佐久地域と比較すると、まだまだ医療と介護の壁を感じる
が、多職種で関わりあえる場が増えてくると、連携も深まり、
様々なケア活動が実践できると感じた。
- その人の思いを大切にすること、心に寄り添うケアをして
いきたい。



故 若月俊一院長

『医療の民主化』

医療は民衆のものであり、
民衆がつくるものである。



いなべにも訪問看護や
介護職等の人材はそ
ろっている、やれる！

訪問診療に必要なこと

- ・身体診察、全身管理はもちろん
- ・コミュニケーション能力、笑い
- ・観察力
- ・その人らしい生き方を知る
- ・その人の生活を通じた人たち
を知る

多職種連携で支える在宅医療

★24時間体制の訪問看護ステーション
に支えられている在宅医療

訪問診療を実施している医療機関
の77.4%が、訪問看護ステーションなし
では在宅医療が困難と回答

★その人らしさ、家族を含めて支える
多職種連携

医師でないから見えること、教えても
らえること。

訪問診療を行っている多くの医師が、
ケアマネジャーとの連携に言及して
いた。